

## 紙芝居「アユを知って おいしく食べよう！」：シナリオ例

	シナリオの例	参考資料・補足など
1 枚 目	<p>みなさん、こんにちは。私たちは、〇〇川をよくする活動をしています。私は〇〇（氏名）です。</p> <p>Q：みなさんは、アユを食べたことはありますか？ 身近にアユ釣りをする人はいますか？ アユを釣ったことのある人は？</p> <p>今日は、アユについて知ってもらい、もっと親しんでもらえるよう、お話をしたいと思います。</p>	<p>自己紹介では、川との関わり、特技、趣味などを紹介し、親しみやすい工夫をしましょう。</p> <p>この質問では、参加者自身にアユとの関わりについて思いをはせてもらいます。当てはまる人に手をあげてもらってもいいでしょう。</p> <p>質問と回答は、随時、あるいは最後にまとめて時間をとりましょう。</p>
2 枚 目	<p>今日は、アユを用意しました。</p> <p>アユに感謝しながら、あとで食べていただきますが、その前にアユの体を観察してみましょう。</p> <p>Q：アユの体の表面をそっと、さわってみましょう。 どんな手触りですか？ うろこはついてますか？</p> <p>Q：ひれを調べてみましょう。 いくつありますか？ 形や手触りはどうですか？</p> <p>Q：口を開けて、歯も調べてみましょう。</p> <p>Q：鼻はどこにあるか、わかりますか？</p> <p>Q：えらはどこにあるでしょう。</p> <p>Q：お尻の穴を探してみましょう。</p>	<p>このページは、アユの体の観察のガイドです。事前学習や座学など、実際にアユの観察をしない場合には、割愛してください。</p> <p>衛生状態や気温などを考慮し、観察用のアユを1班に1匹用意し、食用のアユとは別にする配慮をしましょう。</p> <p>うろこはありますが、小さくて目立ちません。</p> <p>たて続けに質問せず、参加者がじっくり観察できているか様子を見ながら、間をおいて質問を重ねていきます。</p>
3 枚 目	<p>それでは、ひれの確認からしていきます。</p> <p>Q：魚のひれの役割は、何だと思えますか？</p> <p>泳ぐ推進力になるほか、左右のバランスをとったり、進行方向を変えたり、停止するのにも役だっています。</p> <p>Q：1枚だけ、他とは違うひれに気づきましたか？</p> <p>これは「脂びれ」といって、アユとサケ・マス仲間など一部の魚にしかない、特別なひれなんです。</p> <p>Q：では、脂びれは何のためにあると思えますか？</p> <p>脂びれの役割は、まだわかっていないんです。</p> <p>Q：尾びれの役割は何でしょうか？ 形に注目しましょう。2つに分かれていますね。</p> <p>尾びれは前進する力を生み出すひれです。泳ぎがうまい魚の尾びれは2股になっているのが特徴です。</p> <p>Q：鼻はどこにあるか、わかりましたか？</p> <p>Q：お尻の穴はどこにあるか、わかりましたか？</p> <p>Q：胸に黄色いマークがあるのがわかりますか？</p>	<p>紙芝居の説明とアユの実物を見比べてもらいながら、1つずつ確認していきます。</p> <p>このページはプリントして、1班に1枚ずつ配布するといいかもかもしれません。</p> <p>脂びれは、とげや軟条がないので、泳ぎには役立っていないと考えられています。</p> <p>正解を伝えます。</p> <p>正解を伝えます。</p>

4 枚 目	<p>胸の黄色いマークは、「黄斑（おうはん）」といいます。</p> <p>じつは、養殖のアユの黄斑は小さくてぼんやりしています。鮮やかな黄斑は天然のアユだという証明ですね。</p> <p>Q：なぜ天然のアユの黄斑は鮮やかなのでしょうか？</p> <p>アユは縄張り争いをしますが、縄張り争いに強いアユほど黄斑が大きくて色も鮮やかです。養殖では争わなくてもたっぷり食べ物が与えられるので、あまり黄斑があらわれないのかもしれないかもしれませんね。</p>	<p>黄斑を「追星（おいぼし）」と呼ぶことがありますが、「追星」とは本来、コイの仲間など（身近なところではキングョ）の産卵期に、おもにオスに現れる白い小突起のことをさします。</p> <p>理由を考えてもらい、手をあげて考え（答え）をいってもらいたいと思います。</p>
5 枚 目	<p>さて、次はアユにまつわる漢字のクイズです。</p> <p>Q：この3つの漢字は、それぞれ何と読むでしょうか？</p>	
6 枚 目	<p>答えは、すべて「アユ」です。ふつう鮎という字を書きますが、こんな漢字もあるんですね。</p> <p>アユを観察して、その意味を考えてみましょう。</p>	<p>「鮎」という字は、アユが武運の占いに用いられたことに由来します。神功皇后の故事が有名です。</p>
7 枚 目	<p>まず「香る魚」という漢字です。</p> <p>Q：アユの匂いをかいでみましょう。どんな匂いがしますか？ 何かの匂いに似ていませんか？</p>	<p>座学など、実物のアユがない場合、説明だけです。以下、10枚目まで同様です。</p>
8 枚 目	<p>アユの体は、スイカやキュウリのような、とてもいい香りがしますね。</p> <p>だから香る魚という漢字を書くのですね。</p> <p>この香りは、アユの食べ物の香りなんです。</p> <p>アユはいったい、何を食べているのでしょうかね？</p>	
9 枚 目	<p>生き物が何を食べているのか、口や歯の形を調べることで、あるていどわかります。</p> <p>先ほどの漢字の、「銀の口の魚」をヒントに、アユの口と歯を観察してみましょう。</p> <p>そして、アユが何を食べているのか、考えてみましょう。</p>	
10 枚 目	<p>歯は、細かいギザギザが並んでいて、髪の毛をとかす櫛のような形になっているのがわかりましたか？</p> <p>Q：アユはこのギザギザの歯で、いったい何を食べているのでしょうか。</p> <p>知っている人もいましたね。アユは、水中の石に生えるコケのような藻類を歯で削って食べているんです。スイカやキュウリのような香りは、藻類の香りです。</p> <p>それから、唇もよく発達していて、銀色をしていますね。</p> <p>銀の口の魚という漢字は、このためですね。</p>	
11 枚 目	<p>漢字クイズの最後は、年の魚、という字です。</p> <p>この漢字をアユと読む理由は、アユの一生について知るとわかります。</p>	

<p>12 枚 目</p>	<p>このイラストは、アユの一生を説明したものです。</p> <p>左下の、卵からふ化するところから、順番に見ていきましょう。</p> <p>卵がふ化するのは秋の終わりです。赤ちゃんアユはふ化するとすぐ、川の流れに乗って海へ流れ出ていきます。</p> <p>冬の間、アユの赤ちゃんは河口に近い浅い海ですごします。アユの赤ちゃんの食べ物はプランクトンです。</p> <p>海のプランクトンをたっぷり食べて成長したアユの子どもたちは、川に戻ります。</p> <p>川の中流から上流までどんだんのぼって、石についた藻を食べながら大きくなります。</p> <p>秋、10月ごろになると、そろそろ産卵のシーズンです。</p> <p>川の中流下流まで下ってきて、川底に小石や砂がある所で産卵します。</p> <p>産卵を終えると、アユは一生を終えます。</p>	<p>このページはプリントして、1班に1枚ずつ、あるいは1人1枚ずつ配布するといいかもできません。</p> <p>アユの仔魚が海に出る理由として、川の水温が低いこと、冬の川にはアユの仔魚の食べ物のプランクトンが乏しいこと、などがあります。</p> <p>アユの体には、淡水と海水の両方に適応できる機能が備わっています。</p>
<p>13 枚 目</p>	<p>アユの一生をおさらいしましょう。</p> <p>(紙芝居を読み上げて確認します)</p> <p>Q：アユの一生は、どのくらいでしたか？</p> <p>そう、ちょうど1年です。</p> <p>年の魚という漢字があてられる理由が、わかりましたね。</p>	
<p>14 枚 目</p>	<p>アユの漢字の意味を、おさらいをしてみましょう。</p> <p>(ひとつずつ読み上げて確認します)</p> <p>アユは、海と川で半年ずつくらすため、海も川も環境がよく豊かでないと命をつなぐことができません。</p> <p>つまり、海からアユがのぼってくる川のある地域は、「海も川も環境がよく、しかも海と川のつながりが保たれている」ことがわかります。</p> <p>アユは、海と川それぞれの自然環境、海と川の連続性を示す物指だといえます。</p>	<p>自然の環境をはかる物指となる生き物のことを「指標生物」といいます。</p>
<p>15 枚 目</p>	<p>みなさん、しっかりアユを観察して、アユの物知りになりましたね。</p> <p>では、アユの命に感謝しながら、観察したアユをおいしくいただきますしょう。</p>	<p>質問と回答は、随時、あるいは最後にまとめて時間をとりましょう。</p>
<p>出 典 ・ 著 作 権</p>	<p>活動以外の目的で、写真やイラストを断りなく転用・転載することはご遠慮ください。</p> <p>写真などの著作権は以下のとおりです。</p> <p>&lt;出典&gt;</p> <p>・ 10枚目(イラストと写真) = 「アユのトリビア：アユ・おもしろ話」 福井県内水面総合センター、2005年</p> <p>&lt;写真&gt;</p> <p>4枚目右 = 田原大輔(福井県立大学)</p> <p>4枚目左下 = 大浦佳代</p>	

<イラスト>

12 枚目 = 湯浅信之